

野沢温泉学園 地域支援センターだより 第3号

令和5年2月1日 発行：野沢温泉学園地域支援センター

一年間、野沢温泉学園地域支援センターの活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。今年度は様々な場面で活動を再開し、子どもたちの真剣な表情や達成感に満ちた笑顔が見られ、意欲の高まりや学びの深まりを強く感じました。子どもたちの学びの応援団として大変嬉しいことです。また、支援センターの体制も徐々に整ってきました。本号では、その様子をお伝えします。

「卒業制作」(小学6年生)

卒業の記念品として初めての陶芸にチャレンジした6年生。村にお住まいの陶芸家、スーザン・ダグラスさんに、計6回にわたってご指導いただきました。9月に土をこね始め、うまくいかないこともたくさん。その都度スーザンさんからアドバイスをいただき、粘り強く取り組んできました。素焼きを経て、釉薬をかけ、11月下旬に本焼き、そして窯出しです。感動の表情で自分の作品に直面した子どもたちは、



「最初の粘土から形にするまでが大変でした。自分の想像していた作品になってよかったです。」「途中でくずれて、そこから立て直してうまく作れた。ちょっとでこぼこなのが特徴」などの感想を寄せていました。

世界にたった一つの12歳の記念の器。これからも子どもたちと生活を共にし、その成長を見守ってくださることでしょう。



「野沢温泉村の歴史 村の分校について調べよう」(小学4年生)

7月に朧月夜の館の上原館長さんに旧市川小学校を案内してもらった4年生。村北部の分校についてもっと知りたいと、11月に坪山分校について吉越幸男惣代さん、片塩逸朗さんから話を聞きました。複式学級、50分授業など、当時の学校生活に興味津々。大雪の朝、地域の大人たちが雪を踏んで道を作ってくれたこと、雪道を中学生から一列に並んで通い、小さい子を囲んで吹雪から守ったこと等を聞いて、「優しい時代だ」とつぶやいた子どももいました。12月には米持正徳さんから七ヶ巻の分校のお話も聞きました。渡しの跡や当時の写真も見せていただき、分校の生活を身近に感じながら学ぶことができました。



「野沢菜漬け」(中学1年生総合的な学習の時間)



中学1年生は、学校の畑で育てた野沢菜を使って、野沢菜を漬けました。小学校の時に野沢菜漬けの経験がある子どもたちですが、今回は漬物名人の竹井孝子さんにおいでいただき、村の伝統の味に挑戦しました。漬け上がった野沢菜漬けは油炒めにして、1月の御宿交流で御宿中学生にふるまいました。きっと村の味が伝わったことでしょう。

「ボランティアのつどい」

11月25日に、「野沢温泉学園地域支援センター ボランティアのつどい」を小学校で開催しました。ボランティアの皆さんと学園職員が集うのは今回が初めてです。運営委員長に嶋田孝至さん、副運営委員長に河野沙織さんを選出し、今年度の活動の共有と小グループでの意見交換会を行いました。その内容を抜粋して紹介します。



【子どもたちの活動の姿から感じたこと】

・クラブでは、大湯を正確に縮小したペーパークラフトやあけびづるを使った細工など、子どもたちに地域の方から地域のよさを伝えていただく機会になった。・ボランティアとして、回を重ねるごとに子どもたちが気さくに声をかけてくれるようになった。子どもたちが「できるようになってよかった」と思う。・ボランティアさんは担任も知らない地域のことを教えてくれる先生。村の人、場所、ものとの出会いが興味関心の入口になって探究学習がスタートできている。中学校では外湯の動画制作や地域素材を使ったサイダー作り等、生徒のテーマに沿って探究学習を進めることができた。

【今後、考えていきたいこと(課題)】

・学校とボランティアさんがかかわる時間・曜日の工夫。特に、学校側の柔軟な対応が必要かもしれない。・ボランティアが複数いると、学校の都合に合わせられる。仲間を増やしたい。・ボランティアさんの支援があっても、子どもが自分で考えて、工夫したり、失敗したりできる場面は大事にしたい。・学校からもボランティアさんに臆せず声をかけ、アドバイス、指導をうけるように心がけたい。

【会の感想】

・楽しかったです。ボランティアをするときはひとりですが、いろいろな話をお聞きして、こうやって他にもやっている方がいるんだなあ、一緒にやっているんだなあ、という気持ちになりました。・ボランティアは完璧を求めないようにしたい。なんなら40点とれば上出来というくらいの気持ちで取り組みたい。・地域の方から見た学校、学校から見た地域の方、それぞれの垣根を少しずつ下げていくには、臆することなく声をかけ合うことだと思いました。学校も「困っています」「たすけてください」の声をもっと上げれば、開かれた学校、コミュニティスクールにもつながっていくと思います。

野沢温泉のことは、村に住むみなさんに教えていただくことにより、一層強く子どもの心に残ります。それは、確かな知識や技術に加え、村への思いや未来を担う子どもたちへの温かい眼差しが伝わるからではないでしょうか。さらに、村の大人たちが子どもたちと関わる姿も、子どもたちには嬉しく温かな経験や憧れとして心に刻まれるように思います。野沢温泉学園の教育目標「ふるさと野沢温泉を心に刻む」の実現には村のみなさんの支えが不可欠です。

春の訪れと共に、支援センターも令和5年度の活動を開始します。ご都合がつくようでしたら、ご一緒にしませんか。合言葉は「できることをできるときに」「楽しみながら」。どうぞよろしくお願いします。

・支援ボランティアの希望は随時受付中です。下記にご連絡ください。

連絡先:野沢温泉学園地域支援ボランティアセンター(野沢温泉村教育委員会内) 担当:藤村 TEL:85-3115